

大 隅 石 Osumilite
鹿儿岛県始良郡単人町浜ノ市 産

ている。また 標本試料の収蔵方式も密集式スタックランナーが使用されるようになってきている。

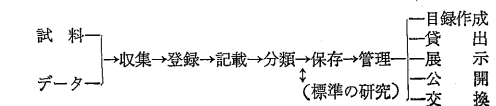
筑波研究センターに“標本館”の設立が確実となった段階では 標本試料の展示部門の拡大ばかりではなく「日本列島の生い立ち」から「地熱開発」「地震予知」「海洋開発」に至るまで 地質調査所の一連の研究プロジェクト 研究成果などの一般への普及展示が強化されることになり そのための外注委託によるパイロットプラン策定にはじまって 各部にわたる関係研究者の協力が求められ 展示レイアウトが完成してきている。そして更に 標本個々の研究を推しすすめるなかで標本試料の記載分類の標準化 化学組成 物性値の研究標準試料の選定作成 国際標準との対比に関する研究など 高度な研究に対する要望も高まってきている。

「標本館」設立にまつわる地質標本の研究と管理に關して このような進展をみてきている情勢のなかにあつて 「標本館」そのものの強力な組織を必要とすることは当然であるが さし当っては これまでのように全所的立場で管理運営を行うにしても その中心となり 母体となる組織の強化・充実が必須となつてきた。

10月1日 地質部内に新しく発足した「地質標本課」は このようにして大きな責任を背負つて うぶ声をあげた。以下には 10月1日改正された地質調査所組織細則および事務分掌内規のなかから 関係事項を列挙しておく。

地質標本課(課長・神戸信和)においては 地質標本の記載・分類及び標準に関する調査研究並びに地質標本の展示及び管理に関する業務をつかさどる
第一研究室においては 地質標本 試錐岩芯等のシステム管理に関する業務を行う
第二研究室においては 岩石 鉱物 鉱石等の地質標本の記載・分類及び標準の研究に関する業務を行う
第三研究室においては 植物及び動物化石等の地質標本の記載・分類及び標準の研究に関する業務を行う
標本管理室においては 地質標本 試錐岩芯等の展示及び管理に関する業務を行う

いずれにしても 地質標本課が行う一般業務の流れは 次のフローのようになるだろう



猪 木 幸 男(地 質 部)

地質調査所には 地質を研究するうえで 最も重要な研究資料としての 岩石・鉱物・鉱石・化石など 大きささまざまな地質標本試料が収蔵されており 整理され登録されているだけでも5万点以上はある。これらはいずれも第二次大戦後の調査研究にあたって蒐集された研究資料が大部分であるが 1部には個人的コレクション(例えば木下標本)や諸外国からの寄贈によるものも含まれている。さらに地下資源探査その他で実施された試錐によって得られた貴重な岩芯試料があり また現在研究中で未登録のものを加えると 現在地質調査所の所有する標本試料は20万点を超えるであろう。

このような地質標本は種々の研究資料として役立てられているばかりでなく 特に国内の地質に関する代表的な試料は 種類別 地域別あるいは年代別などに選びだされ 地質標本室(Museum)に展示されて 一般公開され 地質学の普及に大きな貢献をしてきた。

これらぼう大な地質標本に対する研究・管理は これまで 組織のうえでは 地質部内の1研究室が“鉱物・岩石・化石などの同定・分類に関する調査研究並びにこれらの収集・整備・交換に関する業務”を行ってきたのであるが 筑波研究センターのなかに “標本館”設立の構想が台頭しはじめた頃から “地質標本”の全所的立場での管理・運営の必要性が強調され “標本室運営委員会”が設立された。また“地質標本の研究グループ”も所内特別研究(経常)の1つとなり “地質標本試料”に対する合理的かつ近代的管理運営が検討されそのための“研究”も推し進められてきた。その成果の1つは電算機による標本試料整備管理のIRシステム化による検索プログラムの完成である。GEMS(Geological Survey Museum System)がそれであり 既に実用化され